

第3回 太田市地域公共交通活性化協議会（議事録）

（事務局：高橋課長）今日もお忙しい折お集まりいただきまして、ありがとうございます。只今から第3回太田市地域公共交通活性化協議会を開催させていただきます。進行役を務めさせていただきます、事務局交通対策課の高橋です。よろしくお願いいたします。では、はじめに木村会長からご挨拶をいただきたいと思ひます。木村会長、お願いいたします。

（議長：木村副市長）弥生3月の今日はなんか生暖かいような、なんか変な感じの日ですけども、金曜日なもんですから本来ですとワクワクするんですけども、金曜日の午後2時から会議にお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。本日の第3回太田市地域公共交通活性化協議会に際しましてはですね、この後、事務局の方からいくつかの報告事項、或いはその後、報告を兼ねて皆様方のいろんなご意見ですとか、アドバイスを承りたいものがありますので、時間の許す限りですね、よろしくご協力の程お願ひしたいと思ひます。今は去る去年の真夏の8月24日の日に第二回目を開催させていただいたんですけども、その時にご承認いただきました、この中にもお持ちの方いらっしゃると思ひますけど、地域公共交通網形成計画、この案につきまして第二回目では皆様方からご承認いただきまして、その後手続きを経まして、9月の半ばに国土交通省の方に報告を致しまして、皆様方のお手元にも届けさせていただいたり、或いは市民の方にもですね、この網形成計画を公表させていただいた次第です。いろいろご協力いただきましてありがとうございました。おかげさまをもちまして、今後の太田市の公共交通網の再構築に向けて貴重な第一歩を踏み出すことができたという風に思っております。誠にありがとうございました。そういった所で只今太田市はですね、3月の定例市議会で新年度の予算をいろいろ検討しているわけですが、その中で市長の施政方針の中にもですね、公共交通に関するいろんな事業がですね、来年度の目玉事業の一つだということでもって予算編成がされておまして、新聞その他をもつていわゆる無料バス、スクールバスを活用した無料バスの運行ですとかいろんな報道がされておりますけども、いずれにしても、太田市のお年寄りですとか、或いは運転免許を持たない生徒、学童、或いは障害をお持ちの方ですとかお年寄りの方などがですね、家に閉じこもったり、或いは外出ができないというような不都合さを極力排除して、買い物に或いはいろんな入浴施設ですとか、或いはいろんな所に元気にですね、皆さんが出掛けていただきまして、健康増進を図ると同時に、太田市がより元気な街になるためにはですね、この車社会の最も典型的な都市ともいえます太田市の中における公共交通をいかに構築していくかという事が大事な事だという風に、我々行政サイドとしては痛感しているわけですが、従いまして、今後無料バスの運行について、その他につきましてですね、皆様方の貴重なご意見だとかを賜りたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。なお、もう少し経ちますとですね、清水市長もこの会に急遽参加してくれるということで、市長の思いもですね、皆様方にお伝えできるかという風に思ひますけれども、いずれにしても、限られた時間ではありますけれども、今回の第3回目がですね、充実した会議で執り行われますことをお願ひいたしましてご挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございます。

(事務局：高橋課長) 木村会長どうもありがとうございました。それでは会議を進めさせていただきます。はじめに、本協議会の成立についてご報告申し上げます。本協議会の規約第 8 条第 2 項に、「会議は委員の過半数が出席しなければ開くことができない。」と記載されております。委員総数 28 名のうち本日の出席委員数は代理の方の出席を含めまして 22 名でございますので、過半数を超えており、会議が成立していることをご報告申し上げます。では、これより本日の報告事項に移りたいと思います。それでは規約の第 8 条第 1 項に則り、木村会長に会議の議長をお願いいたします。

(議長：木村副市長) はい。では、よろしく申し上げます。それでは規約に則りまして議長を務めさせていただきます。委員の皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。それでは議題 3 の報告事項、第 1 号 I、市営路線バスの運行実績について、及び II、おうかがい市バスの運行実績について事務局より一括して説明をお願いしたいと思います。お願いします。

(事務局：塚越係長代理) はい。日頃より皆様には大変お世話になっております。今日また年度末お忙しい中お時間いただきましてありがとうございます。交通対策課の塚越と申します。着座にて失礼いたします。それでは私の方から報告第 1 号の I、市営路線バスについての運行実績についてご説明を申し上げます。お手元の資料の 1 ページをご覧くださいながらご説明を聞いていただければと思います。こちらに太田市の市営路線バスの概要を記載させていただいております。太田市で今現在運行しておりますのは、こちらに記載のとおり、新田線、尾島線、市内循環線の 3 路線を運行してございます。運行につきましては株式会社矢島タクシー様にお願いをしまして、市はバス運行事業に掛かります赤字分を補助金として支出する形となっております。各路線につきましては、当の運行時間等につきましてはここに記載のとおりでございます。利用料金についてでございますが、60 歳以上高校生以下につきましては 100 円、一般は 200 円、運行につきましては土曜、日曜、祝日、年末年始は運休となっております。それではページの方が 2 ページの方に移ります。こちらには各路線の利用人数を記載してございます。まず一番上の 1 行目、新田線でございますが、平成 27 年度が 30,251 人、平成 28 年度が 31,252 人と、前年度比で 3.3%増となっております。29 年度と平成 28 年度との前年同月比においては、11.7%ほど上回っております。これにつきましては、新田暁高校、太田女子高校での聞き取り調査を踏まえて平成 26 年 4 月から朝、夕方を増便したことが引き続き主な要因と考えております。続きまして、2 行目の尾島線でございますが、平成 27 年度が 13,312 人、平成 28 年度が 12,829 人と前年度比でこちらは 3.6%減となっております。しかしながら、平成 29 年度、今年度と平成 28 年度との前年同月比において比較をしてみますと、9.5%ほど上回っており、平成 29 年度の最終的な実績につきましては前年度の利用者数を上回るものと推測をしております。詳しい状況分析につきましては、運行事業者である矢島タクシーにヒアリングを実施することで、利用者の増加に引き続きつなげてまいりたいと考えております。最後に、市内循環線でございますが、平成 27 年度が 2781 人、平成 28 年度が 2482 人と、こちらも前年度比では 10.8%減となっておりますが、こちらも 29 年度と 28 年度との前年同月比におきましては、16.1%ほど上回っております。こちらも平成 29 年度は最終的には前年度の利用者数を上回るものと推測をしております。こちらの詳しい情報

分析につきましては、同様に運行事業者さんにヒアリングを実施することで、引き続き利用者の増加に努めたいと考えております。なお、路線バスの月ごとの利用日数、人数等につきましては、その次の3ページから5ページにそれぞれ27年度、28年度、29年度の1月までという形で別表にまとめてございますので、後ほど参考にしていただければと思います。それでは市長がお見えになった所申し訳ございません、もう半分のおうかがい市バスの方に移ってまいりたいと思います。おうかがい市バスの運行実績につきましては、資料の6ページになります。こちらにおうかがい市バスの概要を記載いたしました。おうかがい市バスにつきましては太田市が運営をいたしております、株式会社矢島タクシーに運行を委託する形態でございます。市内在住の65歳以上の方が原則で歩行以外の移動手段を持たない方を対象としております。登録制で電話予約にて実際にご利用をいただいております。運行時間は午前7時から午後4時まで。利用料金は1回の乗り降りで100円となっております。路線バス同様、土曜、日曜、祝日、年末年始は運行を致しておりません。現在の車両ですが、7人乗り6台、10人乗り3台、計9台の車両全て矢島タクシー様の車両で運行をいたしております。続きまして、利用実績についてご説明させていただきます。7ページに利用実績の方がまとめてございます。利用登録者につきましては、次ページをめくっていただきますと、8ページの表の2-1の通り、平成26年度に3千人を超えまして、以降も増加をしております。地区別の登録者数につきましては、次の表の2-2の通りでございます。続きまして、延べ利用者につきましては9ページの表2-3の通りでございます。利用登録者数の増加に伴い、運行車両を増やしたこともありまして、平成25年度には3万人を超え、以降年々増加をしております。地区別の延べ利用者数につきましては、表2-4のとおりとなっております。次にページ移りまして、10ページとなりますが、10ページの表の2-5に目的地別の延べ利用者が乗っております。表には割合の記載はしていませんが、各年度とも医科診療所、または歯科診療所の利用が大体36~37%、大型店舗の利用者が12~13%となっており、通院と買い物が主な目的となっている状況でございます。次に表2-6でございますが、利用回数別実質利用者数でございますが、各年度とも1回~20回が60~63%、21回~40回が15~17%と双方足しますと75~80%を占めております。最後に11ページになります。表2-7バス停留所をご覧ください。停留所の設置数も年々微増をしております。ただ、数を増やしますと運行効率にも影響あるものですから、申請とまたご相談を得た中でやむを得ない所に増やしていくような状況でございます。最後に、表2-8、目的地別バス停留所をご覧くださいいただければと思います。この中で数的には先ほど一時増加ございましたが、その中で内訳としては増減がありましたので「駅・その他」が年度と共に増えておりまして、バス停留所が元々の集会所等からですね、遠くて、なるべく近くの停留所をという中で、お近くのコンビニエンスストア等をバス停留所に登録申請する件数等が増えていることが要因と考えております。繰り返しになりますけれども、停留所が増えることで利便性は向上いたしますが、乗降場所が増えると運行効率の低下を招く原因にもなってきますので、こちらにつきましては、利用状況を精査し、必要に応じては廃止等も必要と考えております。最後になりますが、資料がですね、戻っていただきまして、7ページに戻っていただきまして、最後、おうかがい市バスの一人当たりの運行経費の試算でございますが、平成26年度につきましては1,655円、平成27年度は1,569円、平成28年度は1,702円、平成29年度は見込みでございますが1,734円程度と推定しております。運行車両の増車等により運行経費は増加しており、今年度の延べ利

利用者数については前年度比で微減と推定しました。微減の理由としましては、利用者の通院時における予約時間に配慮した配車であったりとか、電話予約時の変更なども一部、影響したと推測しますが、データを引き続き分析することで原因を特定し、今後も経費の増加を抑えながらより多くの人が利用できる運行方法等を研究していきたいと考えております。以上で報告第1号につきましてのご説明を終わらせていただきます。

(議長：木村副市長) はい。どうもありがとうございました。本来ですとここで色々皆さんからのご質問ですとかなんですけども、ちょっと時間の都合で市長の方からじゃあご挨拶をお願いします。

(清水市長) 活性化協議会は初めて出たのかなという風に思いますけどもそうでもないのかな。皆さん方に定期報告いただき、バスの話とか或いはおうかがい市バスとかですね、太田市が少し前を向いて高齢化社会或いは高校生、青少年の為に安全で安心して目的地まで着けるバスネットですね、やっていただきましてご協力ありがとうございます。只今、最後にありましたけれども1人あたりのコストがちょっと動くだけで1,700円もかかるというのが結構な負担でありましてですね、これから高齢社会を迎えて、おそらくもう早晩に3分の1が高齢者であるという時代の中で、この事が果たしていつまでも成立するのかというのは非常に難しいように思います。できるだけ効率的にですね、乗り合いバス、おうかがい市バスは乗り合いバスであって、必ず5人以上は乗せてるとかですね、1人は乗せないとか、それぐらいのことをやらないとなかなか大変かなと、まあ、お客様が全て100%満足いくわけではありません。行政というのが元々ですね、公平であると同時に、でも不公平な団体なんですね。全員に同じ事を皆にやることは不可能な、行政とはそういうものだという風に思っています。バスに乗る人も乗らない人もいらしてですね。片方で今考えているようないわゆる4月から実行しようと思っていますが、タクシー協会から反対の文書が出ていましたが、タクシーと全く性格が違ふと私は思っておりますが、無料で市内の巡回バスを出す、東系統と西系統の2つの系統でやってみようと思っております。これは何でやるのかっていいますと、スクールバスをうちは23台も持っています。スクールバスは23台が昼間は全く空いているわけでありまして、このスクールバス利用によって効率的にお客様のサービスと市民の満足が高められるような方策ができるのではないだろうかということを探っていったわけでありまして、これが23台全部動かそうとは思いませんけども、当面8台ですね、できれば、バス停で待っていると30分に1回くらい必ずバスが来るような環境づくりができるのではないかなということでした。是非これをですね市民の皆さん方に支持をしていただいて、少しは歩くけれどもというような環境づくりを作っていきたい。まあ8台ですか23台持っていますので、まだ残りがありますので、市民がどういう反応をするか、それによってまた追々考えていければいいんじゃないかなと思っております。高齢社会とか一人ひとりの子供達を大事にするということですね。行政からどこまで関わっていくか、それなりにいくこと、いきつくところまでいくつもりもありませんけども、でもそれは十分に考えなければならぬと思っておりますので、皆さん方の協議の中に入れていただいて、できればもっとですね、もう一步進めるような協議になってくれれば有り難いと思いません。タクシー協会の方、前橋から電話あったんですけども、連絡しておきました。是非実態を見

てくれと、その電話をしてくれた方が太田と藪塚には来ていないみたいなんですけども、是非実態を見ていただいて、営業で来られた人に私達がお迎えするとかですね、タクシーを乗らないようにしてしまおうとかそんなことは一切考えておりません。我々は本当に子供達とかお年寄りにターゲットを絞ってますので、ご理解いただければというお話は一応しておきました。以上ちょっと長々と申し上げましたが、今後ともですね、バスがいわゆる民間のバスが撤退した後、みんな公共が請け負うようになりました。可能な限りですね、満足度の高いバスの運行をやりたいと思いますのでご指導いただけますようよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

（議長：木村副市長）ありがとうございました。それでは続きまして、先ほどの事務局からの報告並びに、只今市長からご挨拶といたしますか、市長からのお話でも結構ですので、何か質問ですかその他ですかございましたらお願いします。どなたかいかがでしょうか。よろしいですか。いかがですか。じゃあこれからでも結構ですので、また何かお気づきになりましたら、後ほどでも結構ですので、ご質問、ご確認事項ありましたらご発言ください。それでは次の報告事項に移るんですけども、次第、第4のですね、今、市長からのお話がありました、無料の市営バス、路線バスの運行について、事務局よりまた説明をお願いします。

（事務局：平賀課長補佐）交通対策課の課長補佐の平賀と申します。ご説明については着座にて失礼させていただきます。それでは資料の12ページ以降をご覧ください。17ページに資料がございますので、そちらと合わせながら見ていただきたいと思います。まず、はじめにですね、皆様方におかれましては昨年の6月と7月にご審議いただき、ご承認いただきました太田市地域公共交通網形成計画が9月に国土交通省に送付され、市民への公表をいたしました。この節は大変お世話になりました。群馬県では太田市が最初の計画ということです。それでは4番目の無料市営路線バスの運行についてご説明をさせていただきます。太田市では平成30年4月より新規に路線バスを運行いたします。その新規路線は太田市教育委員会で利用しているスクールバスを活用し、太田市が道路運送法の許可に基づかない白ナンバーで、無料の路線バスということで計画しております。

それでは13ページ、まず運行の経緯の方をご説明させていただきます。

①といたしまして太田市教育委員会が運行するスクールバス、23台を所有していて運転手も雇用しているという状況があります。それから②といたしましては、そのスクールバスを活用できないかということで、停留所や運行経路、スクールバスについては小学校なんですけども、その経路等見直し、検証し見直しをいたしました。その中で上手く路線バス等を使えるのはないかということで研究を重ねてまいりました。その後、太田市で運行しているバスの経費、これがシテイライナーおた、おうかがい市バス、スクールバスの経費等でバス等を運行しているんですけども、この経費の中でスクールバスを活用して路線バスに利用できないかということをもたえておりました。最終的に、路線に使えるバスということを確認いたしまして、見込めるだろうということを目安として、それとあと、地域公共交通網形成計画に位置づけられていた路線ということもありまして、アンケート結果等でそのヒアリング等でいただいた意見等から需要がある

だろうと、あるのではないかということですね、今回、西側と東側 2 路線を新たに運行することにいたしました。その路線につきましては、17 ページを見ていただきたいんですけども、17 ページについては 30 年度に市営路線バスとして走らせたいというのを含めてなっております。凡例の方を見ていただきますと、上から水色っぽい新田線というのがございまして、これが太田駅から西の方に延して新田暁高校まで。それから尾島線の方が太田駅から南の方に、緑の線なんですけども、尾島歴史公園まで。それから市内循環線というちょっと茶色っぽいのが市内太田駅から九合地区を通りまして太田記念病院等または太田駅まで戻るという循環線になっております。その他、地域幹線、新設西バスと書いてあるところなんですけども、これが、その左側にあります上の方、東武桐生線の藪塚駅から南の方にこう下がっていく西バス①って書いてあるんですけども、これが最終的には南の尾島温泉利根の湯までということで西バス経路と位置づけたいと思っております。それから東側に地域幹線、新設東バスとあるんですけども、こちらが地図右側にあります青い点線なんですけども、イオンモール太田から休泊行政センター等を通してバスターミナル太田まで行くというこういう 2 路線を新たな計画をしております。また、路線の内容についてはまた詳しくご説明させていただきます。

戻っていただいて 14 ページの方をご覧ください。運行の目的と致しましては先ほど市長とかも同じだったと思うんですけども、引きこもりがちな高齢者を外出させて健康維持することにつなげたいということもありまして、この路線にあります温泉ですとか、スーパーですとか病院、こういうところにつなげていくというのが主な路線になりまして 1 つ目になります。2 つ目としまして、高齢者の足の確保ということで皆さんがスーパーとか買い物とかで使えるような商業施設等に結ぶようなものになります。それから 3 つ目と致しまして、この路線にあります学生さん、高校生などにも利用されるような利便性の高い路線の設置ということで考えております。それから 4 つ目といたしまして、都市計画上の点と点を結ぶネットワークを構築させたいという太田市の基本的な方針の事からこういう路線の方の検討もさせていただきました。それから、バス路線の乗り継ぎ等によって市民の方がいろんな所に行けるという利便性の向上が図れるということも考えております。それではですね、15 ページの方をご覧くださいんですけども、運行の内容になります。運行主体と致しましては市役所の交通対策課のほうで運行をするというような事で、教育委員会で使っているスクールバス 8 台を所管換えをしまして交通対策課のほうで管理をして運行したいと思っております。それに伴いまして、運転手さんの方を教育委員会のスクールバスを運行していた方をこちらの方に来ていただいて、運行していただくということで、交通対策課のほうで今回の 2 路線については早く考えたいと思います。

②として路線名といたしまして先ほどお話しました西バス系統ということで北区間ということでまた 17 ページを見ていただきたいんですけども、西バス系統のほうでも北区間ということで藪塚駅からジョイフル本田間を往復するようなバスを考えています。それから 2 つ目としましては南区間としまして、ジョイフル本田新田店から尾島温泉利根の湯を往復するバスを考えております。こういうバスを今考えております。それから、その他にまた西バス系統で藪塚駅から尾島温泉利根の湯までを直接こう走っていくというような路線が西バス系統となっております。これが大体予定としましては片道、藪塚駅から尾島温泉利根の湯まで約 60 分くらいと想定をしております。ですから、ちょっとジョイフル本田新田店のほうが中間点にありますのでこれで行くと北区

間、南区間については30分で目的地まで着くというようなことになる、往復をする30分で片道行ってまた戻ってくるというようなことで考えています。同じように東バス系統なんですけども、同じようにまた北区間と南区間という事に分けまして、北区間としましては、イオンモール太田から休泊行政センターまでを考えております。それから南区間としましては途中からなんですけども、北区間の途中にあります太田東高校の南からですねバスターミナル太田という区間を考えております。イオンモール太田から休泊行政センターを通過してバスターミナル太田というこの東バス系統を全て走っていくというバス路線を考えております。その区間にも1本考えておりまして、この時間が大体所要時間としては40分ということで考えております。

それから、運行距離としましては西バス系統の方で約片道27km、東バス系統で約16kmぐらいということで計画しております。

それから、運行台数としましては西バス系統で4台使いまして、東バス系統でも4台使う事を予定しております。使用車両としましてはマイクロバスを使用して運行したいと考えております。

それから運行時間なんですけども、午前6時半から午後8時半までの間ということを考えておりまして、その中でもスクールバスということで、この路線ではない学校の近くを登下校で使うバスが何台かありますので、この時間帯はこの路線を走るわけではないんですけども、児童のみの乗車ということに、登下校の時間は児童のみの乗車ということになります。ですから路線バスで走る時間帯というのが朝6時半から登校時間が入るまでの間の7時半とか8時前ぐらいで一回終わります。スクールバスとして走りまして、スクールバスが8時半前ぐらいに終わりましたら、そこから路線バスに入りまして、3時ぐらいまで路線を東バス系統と西バス系統を走ります。それから下校時間がありますので、小学校の低学年、高学年の子がその時間帯になったら学校の周りを送迎しますので、その下校時間が終わった後、約5時半ぐらいから夜の8時半ぐらいまでの間は路線バスとしてまた西バス東バスの系統を走るということになっております。それで、教育委員会のほうでルート等の見直しをしていただきまして、この8台、交通対策課のほうで所管換えをするわけなんですけども、それぞれ東バス系統、西バス系統で1台スクールバスを使わないバスを用意していただきましたので、その時間帯は1日通して朝6時半から午後8時半まで路線を走っているということで今考えております。

それから16ページになりますけども、⑦運休ということで、新しいこの路線については土曜日、日曜日、祝日、年末年始12月29日～1月3日までは運休ということで考えております。

時刻表についてはちょっとまだスクールバス等の関係等で若干まだ整理できていないので提示できないんですけども、一応なるべく多くの本数とあとは運転手さんの休憩時間等も考慮しながら運行時刻を決定しております。

⑨の停留所については、また、すぐ後でお渡しします。

運行の開始については平成30年4月9日、この日が小学校の入学式等学校が始まる日になりますので、この時期に合わせて運行したいと思っております。それでは18ページの方を見ていただきたいんですけども、17ページですとページの方が全部入ってありませんのでこういうようなお話をさせていただきたいと思っております。停留所のご説明になります。西バス系統北区間停留所の案になります。まず藪塚駅、こちらは学生さんが東武鉄道から乗っていただくような停留所です。それから2番目としまして藪塚いこいの湯ということで、これについては温泉施設になりますの

で、多くの方がお風呂に来ていただけると思います。それから藪塚本町行政センター、これについては行政センターの他に文化ホールや図書館、保健センター等もありますので、この行政センターの周りで皆さんが色々周りの施設を使っただけかと思ひます。それから4番目としまして藪塚しゅんらんというところで、これは作業施設場なんですけども、周りの住民の方が使っただけかと思ひます。それから17ページ西バス①と書いてある点線の所に青い点線の上に西バス①というこれを今左に曲がるところ辺が大原七区公民館となっております。こちらは地区の皆さんが集まる場所になっています。それからその下にあり、⑥として宏愛会第一病院、こちらは病院ですので医療機関として皆さんが使っただけかと思ひます。バス停の方も病院内に停めさせていただきようお願ひをして、ある程度承諾をいただいております。それから⑦としまして新田暁高校、こちらにつきましては新田暁高校の方が桐生方面から東武桐生線藪塚駅のほうから来られる方の為にも使っただけかと思ひます。それから綿打行政センター、それから9番目としまして新田庁舎、この周りにも図書館ですとか保健センター等あります。10番目としましてユーランド新田、こちらの方が新田地区の温泉施設になりますので、藪塚の方がこちらに来られても結構ですし、周辺の方がバスを使って当温泉に来ていただいて楽しむということも考えております。それから11番目としてはジョイフル本田新田店ということで、ここは商業施設になっておりますので、買い物されたりですとか、日用品を買うことができる場所に設定をしております。これが北区間になります。17ページの地図でいくと、ジョイフル本田新田店、ユーランド新田こちら辺が北区間を走ることになります。それから南区間といたしましては、19ページの方をご覧ください。ジョイフル本田新田店、尾島方面に向かっていくのですが、木崎の郵便局がありましたし、きざきまち幼稚園ということでご利用されるかなと思ひます。それから木崎のドラッグストア前ということで交差点、木崎駅の手前北あたりですけども、薬局等が店の両側にあるということでですね、皆さんがここにきていただいて買物をしていただける所としては良いんじゃないかと思ひます。それから続いて4番目としまして、木崎跨線橋北、こちらが木崎駅の西ということになるんですけども、木崎の駅に北口の駅から入るにはという、ちょっと駅までは、ちょっと北口までは行けないんですけども、その通り沿いで来ていただいてその近くにあります星野進学ゼミさんということでお子さん等が来るときにこのバスに乗っていただくというようなことで、伝えていただければよろしいかなと思ひます。それから早稲田ゼミ木崎校さんもありますし、歯科医院ですとか整骨院もあるということで、この停留所を使っただけかと思ひます。それから木崎駅の南口の方に入り込んでいただいて、そこでまた駅のほうに接続をして乗っていただく方ですとか、宝南センターとか太田フレックス高校の学生さんにも、これを使っただけかと思ひます。それから6番目としまして、下田島のショッピングモールということでとりせん、しまむらがありますので、こちらの方で皆さんが買物をしていただく所として考えております。それから7番目としまして、尾島の行政センターには図書館等ございますので、そういう所を使う方がこちらから降りていただいて使っただけかと思ひます。それから8番目としては、すずかけ団地、9番目が南ヶ丘団地ということで、こちらはちょっと今交通機関が無い所として、そこに入り込むことによってまた商業施設のほうにも行けるということで乗車していただければと思ひます。それから10番目としまして中島知久平邸、こちらが観光を兼ねてもあると思うんですけども、中

島邸等を見学するため、この停留所で降りていただきたいと思います。最後が尾島温泉利根の湯ということで、こちらでもまたお風呂に入っていて、藪塚地区や新田地区の方が尾島に行っていて、そして、尾島温泉以外にもたまには違う温泉にも入っていて皆で楽しんでいただくということで尾島温泉利根の湯。で、またここから乗り換えれば尾島線がございまして、尾島線で太田方面、太田駅方面、新田方面、それから尾島地区、もしくは世良田の方に行けるということになるかと思ひまして、こちらが西バス系統の停留所の詳細になります。

それから 20 ページ、21 ページをご覧くださいと思うんですけども、20 ページについて東バス系統の北区間の停留所になります。イオンモール太田の東側に、邑楽線ということで停留所があるのでまた同じようにですね、お願いしました。ここに来ればイオンの方で買い物ができる、その周りに他にもお店がありますし、また邑楽の方にも行き来ができるというようなことでイオンモール太田ということで予定させていただいております。それからその次が 2 番目としまして太田アカデミーということで情報商科専門学校というところなんですけども、こちらに公共交通網形成計画を作ったときに学生さんや学校にアンケートを取りましたが、学生さんが終わった後にイオンのほうまで歩いて行く、そこから例えばイオンモール線に乗っていただければ太田駅に戻れるというのがありますし、多くの学生さんが利用されるのではないかとということでアンケート結果からも回答を得ました。それから安良岡町ゴールドタウンということで、こちら住宅団地がございまして、その方達が乗っていただければと思っております。それからこの辺は道がちょっと道が狭くなるんですけども、④として葦川駅の西ということで、ここからは葦川駅で東武線に乗っていただいて、ここから電車で来た方がこれから高校の方に行くですとか、高校の方がこの駅を利用されるということでこの駅のところに停留所を設定しております。それから 5 番目といたしまして、太田東高校南。こちらが太田東高校の前までは行かないんですけども、そのところで停留所を設置いたしましてその近くに山口医院さんというお医者さんがいますので、多くの方が使っていただければと思っております。それからこの⑤と⑥の太田東高校ですとか太田工業高校については網形成計画のときにも学生さんの方にアンケートをさせていただいて、駅から歩いて来ているんだとか雨のときはすごく送迎が多いとかいう話の中から多くの方に使っていただければと思ひまして、設置を考えております。それから 7 番といたしましては休泊行政センターということで行政センターと、お風呂があります。西バスのほうは 3 ヶ所温泉施設があるかと思うんですけども、7 番のところでは休泊行政センターでお風呂に入っていただければ、皆さんに出掛けていただきたいということで考えていたものです。21 ページを見ていただいて、東バス系統の南区間になります。下がちょっと一部重なってしまっているんですけども、太田東高校南から休泊行政センターまでちょっと同じなんですけども、これはバスターミナル方面から来た学生さんが途中で停まってしまうと学校まで行けないというのがありまして、太田東高校、太田工業高校までちょっとダブりの区間となってしまうんですけども、ここまで延ばして運行をしたいということで考えております。南区間については太田東高校、太田工業高校それから行政センターがありまして、4 番目としまして竜舞の十字路南ということで交差点を南に十字路を使ってこの周辺の方に乗っていただくということを考えております。それから⑤としまして、ローソン太田竜舞店ということで、こちらちょうど太田市の一番東の端になるかと思うんですけども、この近くには大泉高校もございまして、あと武蔵野病院とかもございまして、学生さんにもこ

の所から乗り降りしていただければと思ひまして、この停留所を考えております。それから竜舞駅南口ということでこちら東武鉄道の駅に小泉線に接続させて皆さんが乗り降りをしていただければと思ひています。それから7番目につきましてはベルク竜舞店ということで、ベルクのスーパーで皆さんが買い物に来ていただきたいということで考えております。それから8番目としましては太田年金事務所ということで、こちらに用がある方については使えるような停留所となっております。9番目としまして、ベイシアパワーモール太田ということで、この中にはいろいろな商業施設がございますので多くの方に買い物ですとかに来ていただければと思ひております。それから10番目につきましてはBUSターミナルおおたと終点となるんですけども、この所でのいろいろな路線が繋がっております。尾島線ですとか、大泉、千代田の方から来ています「あおぞら」広域公共バス、それから熊谷のほうに向かいますシャトル500というバスもありますし、ここからでは高速バス、成田、羽田方面に向かうというような路線がありますので、こちらのほうのBUSターミナルということで考えております。停留所については全て承諾をもらってわけではないんですけども、大体今協議段階ということで、いいですよというようなことをおうかがいしておりますので、一部、名称等の変更ですとか、若干あるかあんまりないかと考えればあるんですけど、こういう路線ですとね、4月からは始めさせていただければと思ひております。ちょっと補足なんですけども、スクールバスを活用するということなんですとね、やはりあのスクールバス、登下校の段階のときはお子さんのみでということになってですとね、教育委員会さんのほうでも説明をして学校、父兄さんにも協力をしていただいて、その時間については子供専用で走らせていただいて、その空いている時間帯等で昼間の時間帯等で路線を走らせて、高齢者、学生さんの送迎ができればなということで、高齢者等、交通弱者等の足の確保を太田市としては考えていきたいと思ひておひまして、こういう無料の路線バスということで考えさせていただきました。長くなってしまったんですけど、以上で説明のほうは終わらせていただきます。

(議長：木村副市長) はい。どうもありがとうございました。詳細にわたりまして事務局にも説明ありましたけども、なお、本日この協議会のアドバイザーであります地域公共交通マイスターの為国さんがいらっしゃいますので、この件を含みまして色々アドバイスその他をお願いしたいと思ひますよろしくおひ願ひ致します。

(アドバイザー：為国地域公共交通マイスター) 網形成の作成にご協ひいただきましてありがとうございます。最初いただいたとき、無料バス走らせるって言われて関東運輸局の立場もありましてですとね、ちょっと勘弁してくれよというところが正直な所ですとね、スタートは。ただですとね、実は昨年の後半から全国的に一気に広がってきて私が相談受けるようになってきたのはスクールバスの活用なんですとね。茨城県の行方市ではスクールバス48台持っていて35,000人しか人口いないのに48台も抱えてですとね、それでほとんどスクールバスになっちゃってるんですとね。すぐこの子供がね、乗ってきちゃうという。で合併に合せて、どんどんスクールバス走らせてるから48台抱えて、それで今年間3億円以上出している、もうにっちもさっちも行かなくなっちゃったということで11月から実験運行を始めてるんですとね。一つの路線だけですけども空いている時間使いましょうという話になっております。ただ、空いている時間といってもですとね、中型バスで

その辺を走らせるのも県道みたいなどころしか走れないんで実際は今苦戦しているのに乗ってません。乗っていないんですね。本来はですね、中の方にコミュニティバスですから、中の方に色々入っていかないとやっぱり無理なんですね。そういったきっちりやっている所もあります。他の所もやっぱりスクールバスをなんとかしたいということで、いろんな考え方が出てきているというところだったもんですから、なんとか上手くできないかなという風に考えていたところでもあります。それで実際、今、太田市の現状でいったときに、おうかがい市バスにしても何にしても、区域運行という形でエリアに運行してますので、そういった一から路線をしっかり作る、軸をしっかり作りたいという網形成計画の中で決めたところでもありますので、それが有料なのか無料なのかということなんですけどね。太田市のように、特に群馬県は自動車保有率全国一位という所としてここはスバルの本社工場がある所ですから、全国的に見てもですね、群馬県は自動車王国だと思われているというところだったんですけども、その中で、やっぱりこういう公共交通にシフトしていくっていうことになったときには、まず練習といいますか、実験が必要だろうなというところで、無料で走らせるってことばかりクローズアップされちゃうとどうしてもですね、事業者の皆さん方がいらっしゃいますので、そのところでですね、ご批判をいただくんじゃないかなと思いますし、私も当初はそう思っていたところですけども、逆にやっぱりちょっと落とし込むとかですね、公共交通を使ったライフスタイルを作っていくということに関しては、太田市の場合はまずこのコムバスにですね、慣れてもらう、いずれ有料化という形ですよ。どこの自治体でもですね、やはりスタートの所はですね、最初から事業者さんをお願いして或いは自家用有償運送とかにしてですね、有料で始めるところが結構多いですよ。といってもなかなか上手くいかない。それはやっぱり市民のライフスタイルが公共交通を使うという形に持って行ってないからというところが大きいんじゃないかなと思ってます。今、他の所もスクールバスだけじゃなくて、福祉で走っているバスとか要するに市内を走っているですね、移動手段を考えたら、実は自治体が出しているお金がですね、べらぼうに大きくなっている。公共交通会議でやってますけども、公共交通に関わることしか見えないですけども、他のところで私が関わっている福祉のバス、或いはスクールバス、そういうのも含めるとですね、もう小さな自治体でも1億平気で超えることになっていて、それで事業者さんも努力していただいているんですけども、結局自治体と事業者さんとの間で連携が図れてなくて、事業者さんにお任せになってしまいうんで、ご苦労されていて、なかなか人が増えない。それと地域の人達が全然入ってこないという形です。幸いといいますか、ちょっと機会がありまして、今年度ですね、都市計画課さんと一緒に立地適正化計画、この公共交通の活性化再生法との連携で動いてるんですけども、その立地適正化計画に私、関わって作らせていただいておりますが、それに合わせて太田市内の各地区、全部で15地区なんですけどね、その地区のところですね、皆さんと意見交換を11月からずっと始めております。行ってみますとですね、立地適正化ですからコンパクトプラスネットワークということなんですけれども、ちょうど住むこと、居住誘導という形で住むということで意見交換に来てるんですね。その住むっていうことに関して言うと、公共交通の話は半分以上のところに出てきてしまう。おうかがい市バスの話もそうですし、シティライナーの話もやっぱり出てきます。でも、皆さん方からやっぱりですね、まずはしっかりと足を作れないかだとか、要するに自分達が動きやすいような方法って無いだろうか、それで、協力できるところは我々も協力

したいという風に自治体ベースでも話が出てくるようになりました。これはやっぱりあの太田市、今まで、ホームページで発表があるまで私自身も話し伺っていると、太田市って公共交通全く無いと思われてましたんで、それを考えるとですね、確かに一つのやり方色々あるかもしれませんが、議会でも公共交通のことが議論されるようになって、それと上毛新聞にも取り上げられるという風になってきた関係でですね、やっぱり市民の皆さんが公共交通の意識を少し持ってきてくれたたんですね。ある意味チャンスかもしれないという風を感じているところです。それで今、説明ありましたけれども、これはこれでまずやってみるということで行きたいんですが、ただですね、皆さん、今具体的なダイヤを出してませんでしたが、今準備しているのがですね、実は今これ、西、東、両方とも3系統になりますよね。あの全体の半分ずつ。3系統合わせて、38便あります。19便、19便ですね。片方に19便。ですから、30分に1本から1時間に1本という話になっていきます。今ダイヤ編成しておりますけど、最短の所12分ピッチで走るようになってっちゃうぐらいですね。どれぐらいこれで乗ってくれるか、他の自治体でも30便ぐらい出して、やってみると乗ってくれるんですね。通常の民間の事業者にもう預けちゃってやっちゃうと、たぶん、ここは10便だと思います。10便~12便、つまり5往復~6往復ぐらいの設定というところですね。今回はちょっと実験ですから、やるんだったら思い切ってやりましょうという話をさせていただいて、スクールバスの間だけじゃなくて、その前と後ろ、そこも走らせるという形になっています。それで、ただこれだけで終わりじゃありません。これで終わってしまうと話にならないんで、実は良く見ていただくと分かるようにですね、太田市は平らで都市計画と一緒に回っても、人が集中している所が随分あるんですね。これまだ拾いきれてないんですけど。それで、そういうところをですね、実はおうかがい市バスでやってくれるのかなと思ったら、今アンケートのほうでちょっと出てきたんですけども、おうかがい市バスはやっぱりね、予約が取りにくいとかですね、それがやっぱどうしても出ちゃうんですね。おうかがい市バスはあくまでタクシーじゃありません。ですからドア・トゥ・ドアでは無いんです。乗り合いの定期運行という形を取ります。そういった形になってくると、今おうかがい市バスだけではフォローできない所が随分できてます。綿打地区のですね、伊勢崎の隣にある団地とかですね、古い団地なんかがありますけども、そこの方たち辺りは、おうかがい市バスっていう形ではなかなか動いてなくて、自分らでジョイフルにいければとかいう話を色々伺ったりする。そうするとですね、全体で同じことをやるんじゃないかって、それぞれの地域に合わせた形で、もっとフォローする形の需要が拾えるんじゃないかなということ。それともう一つ。夜8時半以降ないんですよ。今日、副市長さんとも話したんですけど。例えば今どこでも集まってる学習塾ですね。親御さんが行きも帰りも送って行ってます。かなりの送迎やってるんですけどかなりの区間なんで、近場でもそうですし、他の所でもそうです。ただ、同じ方面であれば、例えば学習塾と連携図りながら、タクシー会社さんと一緒にですね、連携を図って、そっちのほうに連携してもらおうとかですね、いろんな事に考えられるんじゃないか。それで、今タクシー会社の皆さんと一緒にですね、なんとかこう公共交通の中に、タクシーをもうちょっと違う形で位置づけられないかなと他の県でもちょっと始められてるところもございまして、太田市内は幸いタクシー業者さんが頑張っていられるので、是非ですね、これで話終わらせるんじゃないかって、新年度ですね、タクシー会社の皆さんと協議会の中で、研究会とかですね、どうやって太田市内の中で新たにタクシー事業とし

て対応できるだろうかできないだろうかという、少し研究会みたいな勉強ができるといいかなど。各地域色々回って行く中で、これだけじゃとても拾いきれない需要というのが見えてますので、やっぱり軸という路線を今作ってますけども、そこに乗っけてくフィーダーの部分っていうのが絶対必要になってきます。その需要って1台当たり3人4人がせいぜいなんですよ。そうすると、タクシー運行だとぴったりになんです。ただ、デマンドとか乗り合いとか色々考えて通常やっちゃうと難しいところがありますし、デマンド運行になると思うと道路運送法の4条の免許を取らないといけないという部分が出てきます。茨城県のハイヤータクシー協会と一緒に議論したりとか、タクシー事業、一般の旅客事業ですかね、それでできないかっていうことで、貸しきりタクシーとかですね、いろんなことのタクシー会社さんがやられているメニューを駆使することで何かできないかということ、今茨城県のほうで一緒になって勉強している最中でございますので、是非、太田市の中でもですね、これを上手く活かしていくためにも、或いは今、あるシティライナーとか或いは、熊谷に行くシャトルとか、そういうものを上手く活かしていくためにも、フィーダーの部分と一緒に研究できるようになれば良いなという風に思っています。とりあえず、すみません、この半年どうも市長さんにちょっと振り回させちゃって。私もどうしちやたらいいかなと思ったんですけども、色々と考えてみた中で、やっぱり太田市なら太田市らしい公共交通を作ればいい。もちろん道路運送法なんかも色々ありますけども、今、国交省の考えも変わってきてますし、いろんなね、話をいただいておりますので。太田市は自動車の先進地だけじゃなくて、逆に日常交通の中で他の所に無いような先進的なことを皆さん方と一緒に考えてやれば良いなという風に思っております。補足と期待と是非一緒にやりましょうということを含めてちょっとお話をさせていただきました。是非色々ご意見いただければと思います。よろしくお願い致します。

(議長：木村副市長) ありがとうございます。只今、マイスターの為国先生から色々御示唆に富むお話も伺ったわけですけども、特にですね、事務局から説明ありました東西の無料バスといえますか、ルートにつきましては決まってるということなんですけども、まあ言うなればバスのルートはできましたと。そこに停留所ですとかそれから結節点があります、或いは駅があります。問題はですね、そのルートに幹っていうんですかね、幹に辿り着く、辿り着き方をどうするかという、近くの方は歩いて行けばいいとかっていうことがあると思うんですけど、これもごくごく限られた人に限定されるという可能性があります。いろんな所に人は住んでいるわけですのでそういった人達が、こういった無料バスをですね、便利に使っていただくためにはそのポイントまで辿りついていただくためのいろんな知恵を出さなければいけないんじゃないかという風に私は先ほどの先生のお話を理解したわけですけども、そうなりますと、先生のお話にもありましたようにタクシー業界の皆様方もこちらにいらっしゃいますけども、皆様方とのいろんなコラボレーションといいますかお知恵をお借りしながらですね、そこをどうやって公共バスをお使いになる方々のポイントまで送り届けるか、或いは必ず出掛けた人は戻ってくるわけですから、その戻りをどうするかとかですね。夜の8時半以降はこのバス走ってないわけですから、じゃあ、いわゆる夜8時半以降についてどうするかとか、そういうようなことをですね、今後色々研究会といえますか、そういった機会を持たしていただければというのが先生のお話だったという風に受け止めたんですけども、よろしいですか。

ということですので、是非ですね、タクシーの業界の皆様方にはそういうことをふまえた上で、ご意見ございましたらご教授いただきたいと思います。

(群馬県バス協会：野口代理) バス協会として、通常だとルートを決めて運行する、利用者が多い、その中で、運賃を取ってやるんですけども、まずは便利な利用者があるところを見つけてルートを作るってことの説明等は聞いたんですけども、まずバス事業者、運送事業をやっている事業者っていうのは、普通にお客さんを乗せるために一番考えているのはお客さんに対して安全に来てもらって乗ってもらう、事故を起こさないためにどうするかっていうところが一番大切だと思うんですね。今回のスクールバスを使って運転手さんはそのスクールバスを運行する人、運転している人が運行する。また、それを管理する管理者はちょっと具体的な話がなかったんですけど、ここの交通対策課の方が管理する。でも通常、バス事業者さんは運行管理者、資格を取った運行管理者が安全面に対して運転手さんに対して点呼を行ったりとか点検を行ったり、まあそういうことが必要でやっています。運転手さんの方に色々教育をやったり、安全面でバスにお客さんが乗ったら、そこで車内事故が一番起こさないように気をつける。まあそういうところを運行するだけ、走らせてますよ、だけじゃなくて、安全面をこんなことをやってますよということすごい PR していかないとお客さんも不安でしょうし、スクールバスに乗ったときに路線バスだと、ここで降りたいよという合図をボタン、場所でもできるんですけど、スクールバスはどこで降りたいという案内をどこですののかなというのはどうなってくるのかっていうのも、お客さんとしては心配かなと思いますので、お客さんに乗って安心してもらって、というところをもうちょっと考えてもらって始めた方がいいと思います。

(事務局：高橋課長) はい。スクールバスのドライバーさんはもうスクールバス専用で運転もちろんしています。ですから、子供さんを乗せる際も安全面ということに対しては万全だと思います。で、スクールバスの時間帯にはスクールバスのコースを走ります。それですので、子供さんがどこで降りるのかとっていうことは子供さんの方も承知しておりますので、その点に関しては、どこに停留所があるのかとっていうのは問題ないと思うんです。ただ、そのスクールバスのドライバーさんが、路線バスの経験がある方もいるんですね。ただ、だからといって通常、路線バスのほうの運行をしているわけではございませんので、何ていうんですか、自分達もこういう仕事をしていて、理屈はわかるんですけど、なかなかそういう安全面の教育とか、指導とかとっていうのがなかなか十分ではないところがあり、今まであの今やってるバスっていうのが矢島タクシーさんのほうに全部お任せしちゃってプロにやっていただいていますんで、そういう面では本当に素人ですので自分達も勉強しながら一緒にその安全面ということに関しては、ドライバーさんと一緒に何ていうんですかね、勉強して、教育するよりも自分がされないといけないんですけども、それを高めていくしかないとは思うんですね。ただ、車両の運転に関してはプロということですので、あとは本当に子供さんを乗せるときも細心の注意を払って運転していますので、あとはお年寄りを乗せるとき、まあ、路線バスに関してもある程度のそういう意識っていうのはあるんじゃないかと思うんですがどうでしょうか。まあ、今回うちのほうに移管されます 8 台のバスに関しては、ずっと言ってますけどもスクールバスと路線バスを兼用して走るんですけども、ドライバ

一さん自体はその8名は交通対策課のほうの所属になります。で、今度はそのスクールバスとうちのほうの路線バスとを兼ねるバスとの共同の管理センターみたいなものを設けて、スクールバスのドライバーさんとうちの方のドライバーさんを同じフロアで一緒に集まって仕事をするような形を取らせていただきます。うちのほうが人事に今要望しているのが、スクールバスを担当している、スクールバスを運行していた方はこちらに、交通対策の方に一人移動させていただいて、両方の管理ができるような体制を取らせていただくと。それで、その管理センターに朝一同に出勤していただいて、そこで健康チェックとか色々、朝の点検等を行いまして、時間で外へ一斉に出て行くというような形を取るっていうことを今考えております。ちょっと具体的にどうしていいかっていうのがなかなか自分もまだ模索している段階ですので、今伺ったお話を参考に、自分も勉強しながら特に安全に関してはきちんとできるようにしていきたいと思っております。

(アドバイザー：為国地域公共交通マイスター) 旅客運送法ですね、交通管理者が扱う業務のやつを今しっかり勉強してもらっていて、運転手さんに関して点呼から何から準じてまずやってもらうという形をまず取っていること。それとどこで降りるかなどのフォローに関しては、今車両の方の問題もありますので、その中でどういう風に対応するかということも、今ちょっと車両の中にアナウンスできるようなものとかですね、色々ちょっと考えてやっているとございませう。準備期間があまりにもちょっと短いで、はっきりしたことはまだ言えないんですけども、法律に準じたところでね、いくら白バスとはいえ法律に準じた形の中でやってもらうような形を検討しておりますので、その辺ちょっとよく見ていただけるとありがたい。

(朝日自動車：田沼代理) 朝日自動車の高橋の代理で参りました田沼と申します。どうぞよろしくお願ひします。ちょっといくつかご質問をさせていただきたいんですが、バスの車両はマイクロバスを使うということですが、何人乗りのどんな形のバスをお使いになるんでしょうか。今回、先ほどの市長のお話ですと、高齢者を主に対象としているということですので、マイクロバスとかですとステップの数が2つ、3つはあるかなと思いますので、非常に乗り降りにご不便が出てくるのかなというところと、あと車椅子の方ももしかしたらご利用いただく事も考えられるのでそういった車両の方はどうお考えなのかなということをご質問させていただきます。あとは利用対象者ということで、先ほどの市長のお話では高齢者を外出させたい、学生のほうもということなんですけども、今回の無料バスは不特定多数のどなたでもご利用いただける形になるかと思ひます。先ほどのタクシーとは性格が違うよということで市長もお話あったんですが、実際問題やっぱり無料のバスが走ってしまえば、それをすれば当然ながらそれをご利用になる方ってのが多くなるかと思ひますので、利用の対象を高齢の方に絞るですとかそういった事とかにはできないのかなというところなんです。あとなぜ、この東と西の路線、ここに限って始められたのかなと。網形成の中では随分とまだ先のお話、31年ですかね。31年からの実証のような計画があったかと思ひんですが、なぜ、この2つの路線だけが先に始まってしまったのか。こちらをちょっとお教えいただきたいのですが。

(事務局：高橋課長) はい。まず車両は 25 名から、ドライバーさん含めると 26 から 29 名のマイクロバスです。スクールバスですので当然おっしゃったように乗降口は一箇所ステップもあって、通路が狭かったりするのもかもしれません。でも、つり革とかも一切無いのでまず定員しか乗れません。それと市長がちょっと言葉が足りなかったのですが、市長が言うのは元気なお年寄りと私達に言ってたんですね。バス停まである程度歩いていけるような元気なお年寄りを、それか家に引きこもっている方は、なるべく外に出したいという意向はもともとございました。それで、そのスクールバスの使用ですと当然車椅子の方たちの乗降はできません。その後はバス停までなかなか行きにくい方、こちらにつきましても、自力でいけないような方もいらっしゃると思います。行ければ乗れるという方については、市長はさっきもまたあんまり言わなかったんですけども、そのバス停まで行けない人達について何か考えなくてはいけないと。それも含めて車椅子の方は乗れませんのでそういう方達が乗れるような何か、その路線バスに変わる移動手段についてはその他の部署、市役所でいう、市長は言ってもせんけども福祉の部署とかでそういうところで全体的に考えていくべきではないか、公共バス、いわゆるこのバスだけで全てを補うっていうことは難しいんじゃないかっていうお話でした。それと利用対象者は今のところはですね、特にうちの方では限定っていうか枠は設けておりません。市長が言ったように元気なお年寄りと、それからこの計画を立てるときに西の新田暁高校とかにヒアリングに行きまして、北から来る学生さん、或いはそのお父さん、お母さんから、北から行くのに公共交通が無いのでなんとかしていただけないかというようなご意見をいただいていると、それを汲みまして、藪塚駅から新田暁高校或いは木崎駅の方からも行けるような路線をとということで考えたのが初めなんですね。ですから、私達の中でもまずは高校生。それから、東の路線で行けば太田東高校と太田工業高校なんですけども、それと市長がおっしゃいましたバス停まで行ける元気なお年寄りっていう曖昧な対象なんですけども、そういうことで始めさせていただきました。網形成計画の中では籠原線とかそれから南北基幹線というものをまず重要視していたんですけども、その籠原線につきましては、まず市内の中を充実させてからその次の段階では良くないかということ。それから私達がその計画を練り始めたときに、市長がそのスクールバスを使った無料のバスの運行をやってくれということになりまして、その南北基幹線を運行するのがなかなかちょっと、そのスクールバスを使った無料のバスというのは厳しいんじゃないかということで、その計画書の中にあつた西部地域幹線、東部地域幹線、どちらも元々計画には上がっておりますので、ではここから高校生たちの需要もあるだろうからここから始めてみようかっていう事でこの二本の路線に着手したところでございます。先生、何か補足ございますか。

(アドバイザー：為国地域公共交通マイスター) あります。路線から言いますと、今ね、スクールバス、太田市が走らせている所がちょうど幸いに西側の路線と東側の路線の近くなんですよ。そうすると、途中でね、スクール専用で行かないといけませんので、そのタイムラグを少なくする、それでいった時にまして網形成で東側と西側のところを地域幹線で乗せてきたもんですから、じゃあこっちだね、いうところから入ってったというのがまずこの路線。それと籠原線とか色々、まさか白バスで熊谷市さんまで入っていけないですよ、それは市長最初言ってたんですけど、絶対駄目ですって言って、まず中をやりましょうということですね。あと、車両の利用に関しまし

でも、逆にね、太田市内、もっと通勤に使ってほしいんですね。通勤で。要するに高齢者とか子供達だけじゃなくて、この 22 万でこれだけの産業持ってる所、本来通勤でいけるはずなんですよ。ですけれども、それがね、これからちょっと検討の中にはありますけれども、逆に一般の人達がおそらく乗っていただけるようになって、たくさん乗ってくれるのであればそれはしめたもんで。そうすると、次、ちゃんとした路線バスにしましょうという話になりやすくなるだろうと。ですから、一応メインのターゲットは高齢者と高校生以下になっていますけれども、一応誰でも乗れるようにして、じゃあどれだけの人がどうやって乗ってくれるのかということのを常にフォローして行って改善していくという形が良いんじゃないかな。あまり絞り込んででもですね、乗らないと困るんで。せっかく走らせて。まあ乗ってみてその状況を見ながらまた色々ご相談させていただけるような今後の協議会で議論できるような形にしていってほしいなんでしょうということですね。そういう意味でちょっと利用対象を特に絞り込むことは無いということにご理解いただければと思います。

（朝日自動車：田沼代理）その利用対象者を実はお聞きしたのは、弊社は路線バスだけではなくてタクシーもごさいますので、朝の通勤以外でご利用いただいているメインのところなんですよ。だからそこを無料で持っていかれると非常に経営上厳しい所があったもんですから、そこを絞っていただければ事業者側の立場からするとありがたいと思って。市の公共交通を考えた中でもやっぱりバスだけではなくてタクシーということは公共交通として一つとありますから、この点についてはお忘れのないようご検討いただければと思います。

（アドバイザー：為国地域公共交通マイスター）それを含めて先ほどですね、これだけで終わるわけじゃないんで。路線バス、路線決まっちゃってるじゃないですか。だけどタクシーのような自由度が全く無いんです。まずこれで実験させていただきながら、逆にタクシーに乗っていただけるような形のものになんとかできないかというのを、是非、研究会作らせていただければありがたいという風に思ってますけれども、是非、アイデアをいただければと思います。

（議長：木村副市長）これから色々、研究会ですか、そういったことを通じての色々より良い方向に双方が回っていくようなですねお知恵をお借りする、或いは意見交換しながら調整していくということがやっぱり必要になってくるでしょうね。

（事務局：高橋課長）今回のこの網形成計画というのが、正に持続可能な公共交通っていうのがテーマとしても一番最初に挙がってくるのかなということがありますので、まあ無くなってしまってからということになってしまわないように、今後、ご協議させていただければと思いますのでよろしくをお願いします。

（事務局：平賀課長補佐）ちょっと見づらいかと思うんですけど、この 17 ページの地図を大きくしたのがこれなんですけども、西バス系統っていうのがこちら藪塚駅からなんですけど、こちらからずっと南に尾島のほうに行くんですけども、ちょうどスクールバスをやってる学校のバスを

使う関係で、大体スクールバスを運行している小学校が、こういう太田市の外側というか付近にありまして、それを上手く登下校走って上手く路線に入りたいとかする関係があるので、こっちからこっちという移動距離とかも多くなっちゃいますので、この路線を走る所の周辺、これもちよっと今見づらいかと思うんですけどピンクのところがあるんですけども、こういう学校の所のマイクロバスを使ってこういう路線、また、路線走ってスクールバスに入る。また路線に戻るといようなことをする関係でこちらと、あと今、東が、17ページの東バス系統っていうのがこちら辺になるんですけども、こちら辺を走るのがこのピンクの学校のバスを使っただけということ、一番利用が網形成計画にあったものとその学校のバスの状況があったということで、東と西を、ということで先に始めさせていただくといようなことにさせていただきました。

(群馬運輸支局：諏訪代理) 皆さんが言ったとおり一通り出てるんですけども、ちょっと気になったのが、時間が6時半から、スクールバスの関係だからだと思んですけど、6時半から20時半ですか。とすると14時間ですかね。これ先ほどバス協会のほうからもあったんですが安全というところで見てるということで、運転手さんの拘束時間とか運転時間の話で14時間という間拘束するのか。とそういったことの関係の労務管理というのが大変になると。そういう8人でやるという話ですから8人は8台で一人でやるっていう話ですから、そういったものも考えてもらわないと、ちょっとまあ普通に計画をもうちょっとそれは綿密にやっていただければなといったところはちょっと一つありましたけれども。

(事務局：高橋課長) はい。ではそれでちょっと説明が無かったんですけども、運行時間は6時半から夜の20時半まで。ただ、ドライバーの出勤が6時から一応21時までということになってまして、6時から14時までの早番と、13時から21時までの遅番の2交代制で、その間に一時間の休憩を取って、実働時間を7時間っていう形で今考えております。教育委員会のほうからバスと一緒に8名の方のドライバーをこちらに移籍します。そのあと8人分が不足しているんですけども、こちら今ハローワークの方に募集を掛けさせていただきまして、今、一応7名は内定しているところがございます。ですので、早番、遅番の2交代制にしますので、その点はたぶん、特に問題は無いかと思いますが、十分気をつけて安全管理のほうはやっていきたいと思っております。

(矢島タクシー労働組合：蔵上代理) 矢島タクシー労働組合委員長の代理の蔵上三郎と申します。実際に私運転手をやっているんですけども、バスの新しい路線は無料ですよ。従来の矢島タクシーでやっているシティライナーだとかおうかがい市バスっていうのは有料になるわけなんですけども、なんかこっちは無料、こっちは有料ってなんか実際に乗るのってお年寄りが多いかなと思んですけども、これってなんかおかしくない。っていうのはですね、実際我々ドライバーとして運転してる、仕事しているんですけども、やはり地元のおじいちゃん、おばあちゃんをよく乗せるんです。やっぱり、これ生の声なんですけども、例えばおうかがい市バスなんかそうなんですけども、「市で登録して、2日も3日も前から電話をして、面倒くさいよあんなのって。だから私は利用できなくて、高いけれどタクシーを利用するんだ。」っていう生の声を良く聞くんで

す。同時に、おじいちゃん、おばあちゃん達が新しいこの路線バスに乗ったときに、「矢島さん、おかしくない」って。「なんで市でやってるのが無料で、おたくのやってる路線バスはなんで有料なの」って。「あんた方もうけすぎじゃない」ってそういう声聞こえると思うんですよ。そういう時に笑ってごまかすってわけじゃないんですけども、この差ってなんなんですか。無料と有料の差っていうのが、明確にね、おじいちゃん、おばあちゃん達から聞いたときに、今の話の説明だと、説明ができないんで、その辺どうしてなのかなとちょっと聞きたいんですけども。

(事務局：高橋課長) それはこの話が持ち上がったときに、有料と無料があるっていうのはなかなか良くない事だっというのは課題の一つとして上がると思う。例えば、新田暁高校。通学する方も新田線で行く方は有料になってしまう。ただ、今回、新規路線で藪塚駅から来る方、学生については無料っていう風なちょっと不公平感が出てしまうんですけども、まずこのスクールバスを使ってやるとなった場合に料金を取れる仕様ではまずありません。それで、さっき為国先生が仰っていたんですけども、そのスクールバスを使ってやるのであれば無料でやるしかないから、まずはそれでその潜在的な利用者の掘り起こしを考えようではないかって、まあちょっと後付けの理由になっちゃうんですけども、っていうこともあります。うちがやってるって言っても一応矢島さんがやってる3路線は市営のバスですから、言ってもらうにはこっちに言ってもらえばいいんですけども。その無料のバスをやってみて、実際どのくらいの利用があるとか需要があるとかっていうのがちょっと今想定できませんけれども、それをやってみて、その状況を色々判断しながら従来の市営の3路線、有料の3路線、それと、今回これから今やっていく無料のバスとのなんか整合性を取っていかうとは思っているんですね。ただ、どっちかの方に持って行かなくちゃいけないと思うんですけども、それだから実際走らせてみて、その状況を見てから色々判断しなくてはならないんですけども、万が一、新田線及び市内循環線で、「何でこっちは有料なの」っていう意見が出たときには、それは市の方へ言っていただくということしか、まあとりあえず無いんですね。市の方で今後考えていくようですよっていうことぐらいしか回答はできない。申し訳ないですけど。

(永島タクシー：石川委員) どうしてスクールバスはお金取れないんですか。ボロだから。人件費は月給で払うから関係無いんでしょうけど、燃料費はかかるでしょ。

(事務局：高橋課長) まあ、かかります。

(永島タクシー：石川委員) それなのにスクールバスは金取れないってのはちょっと。

(事務局：高橋課長) 車両的に本来あれですよ、ノンステップとかバリアフリーでないとなかなか今営業としてやる車両に適さないらしいので。

(永島タクシー：石川委員) じゃあやめればいじゃん。

(事務局：高橋課長) まあ、そういうご意見もはい、承っております。

(永島タクシー：石川委員) そう思うよ。北部は北の毛里田小のバスを使うわけでしょ。北部は。で何で北部は置いて行かれるんですか。おうかがい市バスの使用も少ないって聞いたんですけど、北部は何も無いし、スーパーも何も無いから車でどっか行かなくちゃいけないからどこの家庭にも車あるし。だから、おうかがい市バスがあっても車があるから行っちゃうんだと思いますよ。だってそういう風にさあ、北部にも気使ってスーパーをつくるとか、バスを出してくれれば使用者は増えると思いますよ。同じ税金払って何で北部だけ何もなくて置いて行かれるのかなと私は思います。

(事務局：高橋課長) 路線バスに関しては今回西と東なんですけど、今後、あの毛里田線をまた走らせる予定でいます。

(永島タクシー：石川委員) 毛里田のバス使うなら毛里田を走らせれば。毛里田の人だって雨が降れば子供達だって学校には皆、親が送っていきますよ。スクールバスはマイクロは無いと思ってたけどね、大型バスなんか、3台で。

(事務局：高橋課長) 3台で運行しているみたいですね。子供さんはそれでいいんですけど、まあ後は、さっき市長も言ってましたけど15台か、スクールバスありますよね。それをどこまで対応できるかわからないですけども、現にまあこちらに移管になるということであれば、それがなくても毛里田線っていうのはもう網形成計画の中でも計画として上がってます。それが走らせられると、例えば桐生方面、あと足利方面とかも、その広域のバスとして相互乗り入れができるようなこともできればなどは将来的に考えています。毛里田のほうにはまたバスを出す予定でいますので、ちょっと今日、明日というわけにはいかないんですけども。それまでちょっとお待ちいただければと思うんですが。

(永島タクシー：石川委員) いや、待てないね。年取って死んじゃうから。何も無いもの。

(事務局：高橋課長) 毛里田地区ですもんね。

(永島タクシー：石川委員) そう。何も無いもの。

(事務局：高橋課長) 走らせますので。少々お待ちいただければと思います。

(矢島タクシー労働組合：藏上代理) 先ほどの説明で、ちょっと私の方で聞きづらかった、ちょっと意味があれだったんですけども、この今無料のバスが順調にいけば良い、あの、あれなんですけども、続けるかなと思うんですけども、これで持続的に無料が続くんですけども、将来的に、そのシティライナー、有料でやってるその路線バス、おうかがい市バスっていうのも、じゃあこ

っちが上手くいってれば、こっちからお金取れないからじゃあこっちもじゃあ無料にしようかという話で将来的には無料である可能性もあるんですか。

(事務局：高橋課長) それは今断言できないですけども、可能性としてはあると考えます。おうかがい市バスのほうにつきましては、さきほどからずっと出てますけど、その路線バスを補うような形でその補完するような形になんとか持っていければなという風に考えているんですけども、路線バスに関しては、その不公平感が出るということを考えると、今回やったバスの結果にもよるんですが、無料に絶対ならないということは言えない。ただ、必ずしも今の段階では言えないんですが、可能性としてはあると思います。

(矢島タクシー労働組合：藏上代理) 今、太田市ってすごい景気良いじゃないですか。こないだの新聞にも載ってたんですけども何千万円だが何兆円だか数字忘れちゃいましたけど、すごい税収があつての話かなと思うんですよ。これ例えば、スバルさんがコケちゃうってちょっとおかしいですけどね、ちょっと下降気味になっちゃって税収取れなくなっちゃったよ、じゃあそうするところの無料バスはどう削るのかっていうのはそういうのがやっぱりね。これって市としても考えてるわけなんですか。

(事務局：高橋課長) 当課としましては無料のバスっていう話が出たときに、今の財政状況が良いからできるんじゃないかっていうのをちょっと考えました。だからそれがその予算的にこの無料バスを走らせるだけの余裕がなくなったときに、どうなるんだろうかっていうのが担当課の中では一応考えております。ただ、これに対して今の状況はちょっとなかなかこれをやらざるを得ないような状況にちょっとありまして、当課としても見切り発車的なところもあるんですが、将来的なことにしましてはこうしますとかこうやりますっていう断言はできないんですよ。一応うちのほうとしては財政的な面で苦しくなったときはどうするんだろうっていうのは、頭の中にはあります。ただ、そのときどうしようかっていうのは今の段階でまだ無いもんですから。

(議長：木村副市長) はい。ありがとうございます。財政の話ですとか、あと将来的な話とかいろいろ絡んでくると思うんですけども、本会議の趣旨からいたしますと、これはあくまでご出席の皆様方に対する報告という形なもんですから、有料無料がどうなるとか、或いは北部だとか南部だとか色々他のルートも検討しているわけですけども、そういったことにつきまして、今この場でこうします、ああしますっていうこともなかなか担当課としてもどうしても言いにくいことがあると思いますんで、それは今後の課題として十二分に意識した上でいろんなことを進めたいという風に思っていると思うんですけど、そういうことでよろしいですよ。不公平感ですとか、或いは、例えば高校生でもタダでバスに乗れる人とお金払う人と出てくるんですよ。それってどうなのっていう当然問題も出ると思いますんで、そういったことにつきましても、実際に運用が始まってどうなるんだっていうこともひっくるめて、再度、ご報告させていただくようなことでいかがですか。よろしいですかそういうことで。じゃあ、それを踏まえて他に何かご意見、その他ございますか。

(朝日自動車労働組合：小川委員) 朝日自動車労働組合の小川と申します。今お話聞いてたんですけども、スクールバスと一般路線で走るっていう区別の仕方っていうのは相違、何か表示か何かをするんですか。バスのほうに貼ったりなんなりするっていう、お客様がたぶん分かりづらいと思うので、そういうのもちゃんとしっかりしていかないと、お客様もたぶん迷ったり、路線の方に乗りたいのに、スクールバスの方に乗っちゃったりなんなりっていう間違いがあると大変なので、そういう区別っていうのをちゃんとしてあるのかどうかっていうのをちょっとお聞きしたいと思います。よろしくをお願いします。

(事務局：高橋課長) まず、路線バスのコースとスクールバスのコース、全く違います。路線バスは路線バスの時刻表を作ります。スクールバスはスクールバスのほうでまた時刻に関しては子供達のほうに連絡しておりますので、スクールバスの時間帯につきましては本当にスクールバスのコースしか走らなくて、その対象の児童しか乗れません。路線のバスの時間帯になったら路線バスのコース、全く違うコースを走りますんで、まずバスを間違えることはまず無いと思うんですね。スクールバスのときは三角のスクールバスのマークを貼りまして、それから路線バスにするときはそれを取っちゃって、市営バスという表示を出ささせていただきます。それから時刻表のほうにはスクールバスを活用するんですけど、バスの時間帯にはスクールバスを走るのでというような表示とか、その利用者の方が色々迷うようなことが無いように、分かり易い表示の方はするつもりで心掛けております。

(事務局：平賀課長補佐) あと 8 台については黄色く色を塗って区別するようにはしておりまして、市営路線バスはとりあえず緑系、新田線とか市内循環は緑だと思っておりますけども、ちょっと違う色でデザインをしてということで差別化はしたいと思っておりますので、それを市民のほうにも周知したいと思っております。

(議長：木村副市長) 子供と一般の乗客が一緒に乗るってことは無いんだよね。

(事務局：高橋課長) ただ、いつも走るスクールバス 8 台は、路線バスとして走る時間帯に子供が乗ることはありますけども、スクールバスの時間帯に一般の乗客が乗ることは無いです。

(矢島タクシー労働組合：藏上代理) 気になったんですけども、例えば高校生の目線から見ますと、太田女子高の子は太田駅から女子高までバスを乗るとなると、これ有料ですよ。太田駅から常磐高校に乗ろうとすると有料なんですよ。「でも、これ良く見ると、竜舞駅まで行って、竜舞駅から常磐高校まで行けば無料になるじゃん」って賢い選択をすると思うんです。普通に考えてみれば。これで、「ちょっと良いね、常磐高校の人って。ちょっと工夫すれば無料でバス乗れるじゃん。」って。「いいじゃん。」ってなと思うんです。女子高の子って、あとは太田高校もそうなのかな。「明らかに私達有料じゃん。おかしくない。」って、この無料の路線バスを考えたときに、いろんな意見があって作られたかなと思うんですけど、こういうことに疑問も何も感じないでできたのか、おかしいですよ。こっちは有料、こっちは無料。「何、常磐高校の子いいじ

やん。何でね、私達の路線は有料なの」って。新田暁高校もそうですよ。太田駅から乗ればこれ有料です。「ちょっと工夫して、藪塚駅まで行けばこれ無料で乗れるじゃん。って選択肢があっていいよね。」って女子高生と太田高校っていうのは、関東学園はちょっと歩いていきますけど、やっぱりこれどう見ても、私タクシーの運転手としてではなくって一市民として、これ、笑っちゃうくらいおかしくないですか。これちょっとって思うんですけど。

(事務局：高橋課長) 先ほども言いましたように、例えば、同じ新田暁高校でも行き方で有料、違う行き方で無料、まあそれと同じことだと思うんですけども、だからそれも当初から考えてはいます担当では。やっぱりそれは矛盾が生じるよねと。だから、その点に関してもやらざるを得ない状況なのでやって、整合性を取るようなことを常に考えながら、改善を図っていくっていうことしかちょっと今はちょっとお答えはできないですね。

(矢島タクシー労働組合：蔵上代理) であるならば、何ていうのかな。上手く言えないですけど、無料良いと思うんです。無料って。私達一市民ですから。バスがこれで乗ればそれはいいですよ。だから、シティライナーとかこっちの有料バスもじゃあすぐにね、4月から無料にしましょうってのは現実的に無理ですよ。どうやってもわかりますよ、無理なのは。じゃあ、この一年間で、我々タクシーの運転手として今度ね、おじいちゃん、おばあちゃんから不平不満が出たときですよ、「大丈夫よおじいちゃん、おばあちゃん。来年からね、うちのバスにも無料が出たよ。」って言いたいじゃないですかやっぱり。

(議長：木村副市長) あの、この件につきましてはね、この場でどうするこうするっていう議論にはなりえないと思いますんで、そういった問題提起があったっていうことを踏まえてですね、行政としてどうするかっていうような結論を出すっていうことになると思いますんで、今、有料にします、無料にしますとか、全部無料にしますとかっていうことについての議論は、この辺で止めておいていただいて、実際に運行した今の感じとしては最初はいわゆる社会実験としているわけですよ。ですからそういったことも踏まえてですね、当然バスに乗っても有料無料というのが問題になると思いますんでね、その辺は今後の推移を見守っていただくっていう事でいかがですかね。あのどうしようってことにはなりませんので。だからそれははっきりしなくちゃいけないってのは認識しているわけだから。

(事務局：高橋課長) もう当初からあります。ただ、今日、明日でどうにかっていうのはできないんで。

(矢島タクシー労働組合：蔵上代理) これが一般市民の生の声ですから、と思うんですよね。建前とかそういうのでなくて、たぶんこれ、不平不満出ると思いますんで、まあちょっと検討をお願いしたいと思います。

(議長：木村副市長) じゃあ他に何かご意見等はございませんか。時間もだいぶ過ぎていますけ

どもよろしいですか。まあちょっとまだ越えなくちゃいけない、最後のほう、問題も抱えておりますんで、実際に4月に入ってから運行が開始されるわけですけども、その過程ですと、今日議論がありました、色々なルートの問題ですとか、料金の問題ですとか、そういったことにつきましては、またご報告できるようにしたいと思いますので、ご了解いただきたいと思います。

(随行：平野氏) 群馬運輸支局の平野と申します。先ほど為国先生からお話があったと思うんですけど、これからタクシー事業者さん、乗り合いバスも含めてだと思っておりますが、このことについて先ほどの幹線とフィーダーの関係性ではないですけど、そのような委員会をするというような風に聞こえたんですが、それは確実に実施されるということですのでよろしいですか。どうしても今の運送事業者さんからの話を聞きますと、まあ道路運送法上、残念ながら今回の無料バスについては、法の対象外ですので、何ら行政機関を止めるということではできません。しかしながら、今まで公共交通を作られてきた皆様からすれば、あまり好ましくはないというのが当然で、今のような意見が出たのかなど。そうなりますと、やはりゆくゆくのことを考えて、皆様との研究という形ですかね、住み分け、共生ですか。共に生きるような形で委員会が開催されることをまあ私ども、国土交通省としては切に願いたいなというところがございます、それが確実に今この段階でやりますっていうことでいただけるのであれば非常に嬉しいですが、いかがでしょうか。

(事務局：高橋課長) はい。実はこの無料のバスっていうことになったときに、走らせるときは良い。でも、その無料のバスを走らせたことにより、例えば先ほど朝日さんからもお話がありましたけれども、タクシーが無くなっちゃうよ、タクシーが無くなっちゃいました。それで無料バスを走らせているうちに先ほども話出ましたけども、財政的に困難になりました。バスはやめなくちゃなりません。といったときにバスは無い、タクシーは無い、そうなったときどうしようっていうのは、担当の私達もやっぱり課題としての一つとしては十分承知しております。それで今までいろんな意見をお聞きしまして、実際この会議が始まる前に、会長であります副市长ともお話をしたんですけども、ぜひともそういうタクシー業界の皆様のご意見を尊重しながらお互いがこう生き残っていくような、タクシーもある、バスもあるっていうような、そういうやっぱり街にしないといけないなということで、そういう意見交換の場を設けようではないかという話が、実際この会議を開く前の打ち合わせの段階で出たんですね。為国先生も、ぜひそういう場は必要だよということがありまして、来年度、ちょっとまあどういう形になるかわかりませんが、活性化協議会の分科会、或いはそのタクシー業者さんとの意見交換会、学習会ってものを是非実施して行きたいと思っております。実施する予定でおります。

(矢島タクシー労働組合：蔵上代理) すみません。ちょっとあと、この場でいうのはちょっと場違いかなと思うんですけども、ちょっと心配なことがあるんですけど、矢島タクシーが、太田駅からぐんま国際アカデミーに通学でイオンモールバスを利用しているんですよ。アカデミーのお子さんが中等部のほうに。ここでこれが無料バス、これ完全にうちの何て言うんですかオリジナルのバスで市から何の援助も受けてないバスかなと思うんですけども、当然ぐんま国際アカデミーにバス停があるから、これを見ると、蕨川駅から乗れば無料になります。竜舞駅から乗れば無

料で行けちゃうんですよ。そうすると、ねえ社長、これ、持ってかれちゃいますよね、これね。スポンとこれ。でかいと思うんですよ。これって企業努力とかそういうレベルじゃない。こっちは他の会社たちは全然全く関係ない話なんですけども、これってどうお考えかなと。ちょっと心配ですよ。

(事務局：平賀課長補佐) では、事務局の方から回答いたします。東の東バス系統のほうはイオンモールまでということで直接ぐんま国際アカデミーのところまでは行きません。122号線バイパスの方から入り込む邑楽線の停留所のほうに行く予定でして、ぐんま国際アカデミーさんの近くまでは通らないです。

イオンに乗りたい人はもしかしたら帰りイオンに寄って、じゃあこれ乗って帰ろうかなと竜舞駅とか菰川駅に行こうかなって方はいるかもしれないです。それはちょっとどれだけいるか把握はしてないですけども、確かにぐんま国際アカデミーさんの学生さんは太田駅からイオンモールまでの、イオンモールのバス、イオンモール太田線でしたっけ。これに乗ってる方がいらっしゃるってのは把握しております。だけどそれをとって東の方に路線で子供達を乗つけるというような考えで作ったものではなくてですね。イオンモールのほうに来ていただく方を主に、ということで考えている路線ですので、それほどぐんま国際アカデミーさんのほうの学生さんが、こちらに毎日毎日ここまで来て乗るってことは無いことだと思います。

(矢島タクシー労働組合：蔵上代理) 中等部なんで、小学生のね、1年生とか2年生、3年生がイオンモールからあそこまで歩けっただけは無理かもしれないですけど、中学生なら歩いちゃいますよ。本当に。普通。親御さんも毎月どのくらいのイオンモールから節約かもわからないですけど、節約のためにあなた歩きなさいよ。普通中学生って歩きますもん。小学生だって歩いてるわけですから。まあまあまあ、それは良いんですけど。これ率直な意見です。

(事務局：平賀課長補佐) まあそこら辺はいろいろ検証して、またそういう方が何人いるかとかを調べられるのであれば、ぐんま国際アカデミーさんのほうにも私達もヒアリングで聞いたことがございますので、その点を伝えながら確認したいとは思っています。

(朝日自動車：田沼代理) このスクールバスは小学生等が通学する時間帯 8時半ぐらいまではスクールバスといって使うわけで、高校生とかが通学に使いたい時間帯は普通に一般路線を使ってもらえるような形になって、スクールバスのある時間帯は、スクールバスで路線バスは運行しないという考えで、帰りのほうは部活動で遅くなればあるかもしれないですけど、朝の時間帯はスクールバスを普通に運行している時間帯では学生は、なかなか使いづらいということで。

(事務局：平賀課長補佐) 例えば西側路線で4台、マイクロバスを使うんですけども、そのうちの3台がスクールバスの登下校時間帯は学校に行くんですよ。残り1台はスクールバスに行かないバスがあるんですよ。で、それが例えば7時半から8時の間でも走ることは可能ですので、それは学生さんではなくて一般の人が乗れるようなバスということで、考えております。それは

スクールの送迎上の路線ではなくて西バス系統、東バス系統をそれぞれ1台、その時間帯での走れる車ということで、まあそれが学生さんだとかそこまで全員がそれ1台で動きますから、両方からこう乗ってそこまで行けるってことは無いかと思うんですけど、どちらか一方になっちゃうかもしれないんですけども、一応この時間帯でも走れるバスは一応1台用意したいと思っていて、東と西には1台そういう終日スクールバスに入らないで路線だけ走るというバスも用意してございます。

（事務局：高橋課長）その4台走るんですけども、1台はスクールバスに入らないで路線を終日運行するんですけども、3台がやっぱりスクールバスの時間帯には抜けますので、なかなかその高校生の通学の時間に合わせる事が難しいです。その一本の、一本長距離を運行しますから、どれだけ今高校生の通学に対応できるかっていうのが、なかなか難しいんですけども、今時刻表を作るのも困難な状態で、どれだけ対応できるかっていうのが結構難しい問題ではあります。

（朝日自動車：田沼代理）こちらでは対応してもらわなくても、逆にそういう時間帯は一般路線を優先してもらおうようなことを考えてもらいたいってことですよね。

（事務局：高橋課長）そうですね。

（議長：木村副市長）対応できるかどうかはまずわかんない。利用するかどうかはわかんないんですよ。その時間によりますよね。他に何かございますか。じゃあ時間もちょうど2時間経過いたしましたので、いろいろ報告事項、それからスクールバスを利用したの無料バスの件につきましては、貴重なご意見をたくさんいただきまして誠にありがとうございました。今後、今日皆様からいただきましたご意見、ご要望等をですね、行政として、どうこなしていくかっていうことを宿題としていただきながら、また次回以降報告させていただくことになると思いますので、よろしくご理解のほどお願いします。以上を持ちまして、今回の第3回の公共交通活性化協議会を終了させていただきます。どうもご協力ありがとうございました。

（事務局：高橋課長）本日長時間にわたり、色々ご協議いただき、それからたくさんの貴重なご意見等をいただきましてありがとうございました。皆さんから出されたご意見等につきましても、当初から担当課といたしましては課題として十分考えており、これからも検討していかなくてはならない問題ではあるなという事は十分意識しておりますので、実際来年度からこの無料のバスを運行しても、その後も常に結果なり状況を検証しながら改善していきたいと考えておりますので、今後もよろしくお願い致します。

木村会長には議長をお務めいただき、ありがとうございました。お席にお戻りください。

次ですけども、次第5のその他でございますが、1件ご報告がございます。事務局よりお願いいたします。

（事務局：平賀課長補佐）それでは手短にご説明させていただきます。前回の協議会等でも委員

さんの皆様にですね、役員報酬ということで考えていると、4月からそうことをできればなというお話していたんですけども、ちょっと法定協議会という内容と法制事務の関係で条例等が今まとまっていない状態です。30年の4月からの報酬としてはですね、お渡しできないというようなことで、今後どうにか皆さんにこういう場でお話しをして貴重なご意見いただいているわけですので、何かしら考えたいと思っております。4月からはとお話ししましたが申し訳ありませんでした。今後、また検討はしていきたいと思っておりますのでご理解のほどよろしく願いいたします。